

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や手術後の検体、通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（手術検体、血液・細胞・排泄物など）を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	患者由来細胞を用いた生体模倣システムの開発
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) (職名) (氏名) 免疫学・感染防御学講座、創薬プラットフォーム開発講座 教授 山下政克
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2030 年 3 月 31 日
対象となる方	2026 年 1 月から 2030 年 3 月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち消化器外科領域、及び乳腺外科領域の疾患にて外科的切除を受ける患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等 (利用する試料) 手術検体、及び通常の診療で使用した後に残った試料（血液・細胞・排泄物など）
研究の概要 (目的・方法)	本研究は、患者さんから手術で得られたがん組織を用いて、実際の腫瘍環境を試験管内で再現し、薬の効果や安全性をより正確に評価できる新しい方法を開発することを目的としています。 具体的には、大腸がんや乳がんの手術検体から、がん細胞や線維芽細胞、免疫細胞などを取り出して培養し、それらを組み合わせて三次元的に再構築します。この際には、微小な流路構造を備えた臓器チップなどの生体模倣技術を用いて、よりヒトの体内に近い環境を再現します。 この研究により、実際の患者さんでの薬の効き方をより正確に予測できる評価

	法や、新しい治療法・診断法の開発につながることを期待されます。
個人情報の保護 について	<p>この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。提供先が本学以外の大学・研究機関や企業の場合には、個人を特定できる情報を含まない形で提供します。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	愛媛大学大学院医学系研究科医学専攻 免疫学・感染防御学講座、創薬プラットフォーム開発講座 山下政克 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5274